（一）　第九十七號　（水曜日）　京城新聞　明治四十一年十月廿八日

京城新聞

寄書　雜感

渡邊　不言

嘗て不言實行を標榜せし桂内閣は世間より少壯内閣を以て目せられつゝも比較的命脈を保つこと久しかりし所以のものは一に其寡言實行なりしが爲ならんか昔より聖賢の敎皆此寡言實行に基づかざるなし孔子嘗て曰く君子は其言や訒す子路聞くことあつて未だ其之を行ふ能はざるに聞くことあらんことを恐ると云ふも公明宣が曾子の門に學ぶ三年其間決して書を讀まずして夫子の起居動作を學びたるも是實行を先きにしたるが爲なり釋尊四十九年間廣宣流布せられたる演說筆記なる說法を見るに多くは小乘にして其說や大乘の如く深遠幽玄ならず只だ十二因緣[illegible]の理を說き明す位ひにして其最も重きを置かれたるものは佛徒の勤修せざる可からざる戒律なりとす佛將さに涅槃に入らんとするとき比丘等に說き諭として曰く爾等我が滅後は波羅提木叉を珍敬尊重もすべしと波羅提木叉とは戒律にして佛徒が日常當さに行ふべきの作持門、止持門是なり今日の僧侶しかも學者然として饒舌なる僧侶須らく三省して可なり翻つて基督の言行錄なる聖書を見るに基督は決して其弟子に向つて六ケ敷理屈を並べず極めて平易にして解し易き野の百合花を例に引け葡萄を引例せり羊を例に引く且つ我が行ひを見よと云ふて我が言を聞けとは云はざるなり躬自ら弟子を導けるなり故に時としては弟子の足を洗ひしこともあるなり此等は全く實行に重きを置けるなり今日の人は吾人を初め都ての人實行に重きを置かずして只だ口舌のみ口舌過ぎて、實行足らず故に往々食言の譏を免れざるなり言行は君子の樞機、駟も舌に及ばず等の聖賢の遺訓は徒に耳に聞きて心に聴かざるものは特に韓國人に最も多しとなす由來我國が對韓策に就いて二千年來失敗を重ねし所以のものは韓國人を過信するか將た全く信せざるかに座するのみ余や宗敎家諸君に向つて一日も早く韓國人が言行一致の人と化せられんことを望むや切なり偶々感ずる所深し記して所感を陳ぶ

讀者文壇　韓十三道漫遊

熱川　淸岩

紅葉の錦花の香に　御代安らかに富み榮ふ　韓八道の都なる、京城、龍山、京義路や、仁川永登の浦を經て、江原道に出て見れば　春川金城經て安邊、元山ながむる北靑は、明川城津圖們江、打ち越ゑ行けば開城は、松の都と名も高き、向ふに霞む臨津江、黃州平壤山越しに、平安道は此處かよと、大同江は鎭南浦、浮べし船は靜けくも、寶に綾錦を備へたる、鴨綠江もよい義州、魚の群山木浦や、黃金花咲く錦山、今を盛りと思ひ茂朱、年は老ひても珍島、光州羅州に巨濟島、馬山と釜山はすぢ向ひ固城の瀟路を隔てつゝ、慶尙慶尙の境なる鬼も和らぐ洛東江。慶尙北道に來て大邱、名殘を後に積け嶺の天安水原漢江の月も冴へつゝ風濟し。

小說（五十）

河合柳葉

山川は、れ君が侯爵から貰つた書附を取り上げて見るに、

約定書

其方事此度予の妾として召抱へ候上は、假ひ一家一門より如何なる故障申出候共斷じて排斥し、暇を遣はす等の事は決して致すまじく若し予の都合上暇を遣はし候場合は、將來の生活費として金三萬圓を與ふべし

右爲念之約定書差遣し候也

八月廿日

侯爵　御室爲雅

山川君子へ

と記してあつた、

「なる程、有繫は君さんだ、感服々々の書付さへありや、大丈夫屋敷へ乘込めやうと云ふものだ、若又乘込めない場合には三万圓と云ふ金子は、否が應でも取外れはないのだから、それさへあればれ前と二人遊むで行く分にや差支へはない、大きく侯爵家を横領するか、小さく三萬圓ばかりの金子で我慢するか、何方にしても演りかけた芝居の骨折賃には有付いたと云ふものだしかし能く遣歷書付を書いて渡したね、何と云つても華族の坊樣は坊樣だね。」

「だつて、此處まで漕付けるには、並大抵な骨折ちやありませんわ、考へると可厭になつちまひます。」

「れ前の事だから、隨分機嫌を取つてると思ふが、いくら得心づくで遣つたとは云ふものゝ、眞個妬けて寢られない晩がある。」

「私だつて然うだわ、先方では慾のために爲方なしに機嫌取つてるんですもの、お前さんの側に居て、面白可笑しく暮したらと、日に幾度思ふか知れや爲ないわ。」

「ヲツと、久し振で談話に實が入つて、ズツかり忘れて居た、モウ先刻十二時を打つたから、れ腹が減いたらう、何か澤山御馳走爲やうね。」

と思出したやうに云へば、

「れ腹なんか空きやしませんわ　宿を出る少し前に朝飯を食べたんですもの、まあ御馳走なんかれ舍しなさいよ、ヲヽ、私こそ忘れて居ました、家へ始めて行くんだから坊樣（爲雅の事）でも氣が注いたかしてれ土産を持つて行けつてれ金子を十圓下れたの、ですから途中でねビールと、玉子を買つてれ土産に持つて來ましたの、冷しにかけてれ上りなさいな。」

「そいつは剛氣だ、早速冷して置いて久し振に相對いで飲むと爲やう。」

「私ビールなんか、あまり飲みたくもありませんから、久振に澤山れ顔を見せて下さいな。」

「れ安い御用だ、どうだそれでは暫く横になつて話さうぢやないか。」

「はあ、少し横になりませうよ、何だか坐敷牢の中からでも出て來たやうで、無性に嬉しくて疲れが出ましたわ。」

「待て待て、ではビールを冷して置いて、枕を出してやらう。」

と、山川は起つて厨屋の方に行つてビールを冷しにかけ、やがて舟底枕の赤く塗つたを手に持つて、

「サアサア枕だ、今日は少し風もあるから宜い心地だ横になつて寛り話すと爲やう。」

「呼々、生命が延びたやうだ、猫を冠つて居るのは眞個苦しいわね。」

と、兩人は誰に遠慮もあらばこそ、轉りとばかり横になつて、樂しさうに語るのであつた。

▲無料紹介欄▼

人事部

●新聞社の校正係又は外交員を希望年二十五元刑事且つ活版業に經驗ある者　姓名在社（五八）

●求婚　本年二十八月收八十圓血正健　十八九の良家の淑女と結婚したし　氏名在社（六七）

●弟子入用　但し十四五歳のもの　氏名在社（六八）

●求婚　年廿六血統正係累無月收五十圓希望　年廿歳前後体健血正の女子と結婚したし　氏名在社（七〇）

京城又は附近にて豆粕の製造所又は販賣所あらば御知らせを乞ふ　氏名在社（七一）

●被雇度　朝九時より午後三時迄の間雇はれたし給金不望年十九保證人あり　氏名在社（七二）

夜間自宅にて餘暇に從事す御依頼の方あらば御申越し次第參堂の上委細承致すべし　姓名在社（七四）

仲居入用　年齡十七年より廿五六年者至急一名入用但料理店に心得の有る者なれば宜し　大和町一江戶善（七九）

熊本縣人　市下確氏の消息を知りたし　エヌ生（七七）

●年齡廿五歳（妻帶者）會社銀行等の小使に雇はれたし　姓名在社（八〇）

●十四五才の小僧入用　但身元引受人を要す　氏名在社（八三）

清語　夜間七時より九時迄敎授す　南大門通南門湯裏相生町一　淸語速成學會（八五）

電話至急讓渡したし　姓名在社（八六）

小供入用　但十八以下　氏名在社（八七）

物件部

●從來開業中の處突然歸國の不得已に付醫療機械藥品及び患者付の儘にて至急讓渡したし　姓名在社（四七）

●貸間　本欄人事部に御答申すオントル一間疊貳枚敷餘り庭園尤雅にして閑靜詳細は御來談を乞ふ　永樂町佛國敎會裏山田（六三）

古着道具買たし　本町七丁目一六號貴（六四）

●貸地　旭町一丁目の山の手にて風景絕佳の土地家屋附にて讓りたし御望みの御方は御來談を乞ふ　姓名在社（七〇）

一本町より明治町に入三軒目空地三十坪附の貸家あり　櫻井時計店（七八）

裁縫、刺繡、編物、造花、摘細工、英語敎授す　和服仕立物御注文に應ず　大和町三丁目廿六番戶　古谷（八一）

貸地　本町四ケ所　龍山十五間道路南大門外四千坪割貸　洋物店電三二一番（八二）

●至極簡便なる方法にて貸金の相談に應ず　但質書封書　黃金町統明館内渡邊（八四）

東城閑聞

赤十字社總會

天には癸死、地には平和、人には慈愛あり、博愛人道は赤十字社の天職なり、故に如何なる人種をも包容して其恵に依らしむべく、決して人種宗教の異同を問はず、亦國際間の利害にも關係なし、其事業は万國普通にして其間に些の差別あらざるなり、人類の幸福を増進すると云ふ極て高潔偉大なる事業なり、之を以て萬國共同一の働きをなし、其間何等の政略も含有せざるなり、赤十字社の特色は全く茲にあり、世には種々なる組合結社ありて列國々交の繁盛なるに從て万國大會を開きて事を一にするの必要を認め之が會議を開催するも、各國互に利害を異にするを以て[illegible]事を目的とする万國平和會議の如きは然り、之れ其間に多少の政略なるもの存すればなり、然るに赤十字の事業に至りては[illegible]赤十字のみは全く敵味方の差別なく其負傷者を救ひ[illegible]互に相親しむとする戰亂の際にも通行するなり、[illegible]此等の政略を用ゆる必要なきを以て列國共に一國を限らず[illegible]或は利害の點より觀察に限らるゝも、之を以て見るも赤十字社の事業が廣大無邊なるを知るべきなり、之れ一國一州の事業に非ずして地球上に於ける全人類の爲に慈愛を注ぐ事業なれば[illegible]我赤十字社が韓國に組織せられてより既に四年有、今日迄に加入せられたるもの八千餘名其中韓人は八百有餘名なりと聞く、委員諸氏の斷然に努められしと云へ、赤十字の真意を解するもの少き韓人の八百餘名として人類の幸福てふ高潔なる博愛を解することは全く稀有の事たらんか、若し夫れ漸次擴張せられて多數の韓國人が其主旨を發揮して加入せらるゝに至らば彼等の精神界に多少の好影響を與ふべきなり

此大使命を有する我赤十字社は本三十一日を以て第一回の總會を開くべしと、余輩は人類の爲に之を祝賀せざるを得ず、之に據りて更に益々進歩發達せられ第二總會を開催するは著しく發展を見んことを希望す、然れども或種の人が言へるが如く、之を以て一の政略に利用して効果を奏せんとするが如きは甚だ非なり、斯る事を赤十字社に依りて期待するが如きは陋なり、赤十字社は人類の幸福より外何等の意味もなし、小器局なる政治家は總てに政略的に用ひんとして却て失敗す、若し夫れ赤十字社に依りて或種の目的に供せんとする野心を抱かば其は必ず失敗すべし、余輩は赤十字社の首脳が全く博愛人道の大主義に遵守せられん事を希望するなり、苟くも政治的意味のなからん事を期せらるべし

東京電報

▲夏秋蠶の成績

本年の夏秋蠶の成績は例年に比し二割五分の増收なり

▲榎本子爵薨去

病氣危篤なりと傳へられたる子爵榎本武揚氏は昨夜薨去せられたり

▲榎本子叙勳

天皇陛下には榎本子爵危篤の赴聞召され旭日桐花大綬章を下賜されたり

▲松平理事渡韓

來る三十一日奨忠壇に於て赤十字社總會を催し閑院總裁殿下の令旨を奉し外に献上品を携帯して渡韓せらる(以上二十七日發)

雜報

●副統監帝同謁見

曾禰副統監は昨日午後十一時目下滯京中なる德山海軍燃炭所長機關大佐武田秀雄、同大佐伊集院五郎、平壤理事官菊池武一の二氏を伴ひ昌德宮に參内し韓皇に謁見せられたり

●大臣參與官會議

昨日午前十時より統監邸に於て統監府參與官會議を開き同午後二時より統監官邸に於て各部大臣參集し大臣會議を開き同四時散會せり

●(再錄)專任藏相說

桂首相は近日兼任藏相を辭し今回歸朝せる坂谷男を專任藏相に擬むて、自ら大綱を統括する筈なりとの說あり

●軍司令官の歸朝

長谷川軍司令官は來月五日出發歸朝する筈なりしも都合に依り暫く見合する事とせり

●第十三司令部出發期

第十三師團司令部は愈々九日巴城館に移されたる第十三師團司令部は愈

●農相の電訓

農商工部大臣は東洋拓殖株式會社株式募集に關し漢城府尹及び各道觀察使に對し一昨日電報にて左の意味の訓令を發せり

東洋拓殖株式會社株式募集に際し同會社設立の趣旨及び同會社の業務等充分一般人民に說示すべし

●拓殖委員會と韓委員

東洋拓殖株式會社は來月二十日再び東京に於て設立委員會を開催する事は東電の報ずる處なるが韓國委員三十三名は何れも渡日せず日本委員に總べて委任する事となせりと

●東拓副總裁撰任難

東洋拓殖副總裁は少將、佐川中將、韓人關副總裁の撰任に就ては未だ確定せる事實なるに近き邦人副總裁の撰任に就て當局者も右顧左眄の態あり元來宇佐川氏の如き事務的材幹を有する軍人を總裁に戴く以上、別に副總裁を置くの必要なきも韓人側との權衡上邦人の副總裁を設くるに決定せられたる振合あり松崎藏之助氏は拓殖創立當時より盡瘁の功少からざれど奈何せん余りに學者肌に過ぎ實務に迂なりとの批難起れるに乘じ會禰副統監を後援とする美濃部俊吉氏は過日來上京首相宇佐川氏其他關係の面々に對し躍起となりて自薦運動に怠りなく首尾よく松崎氏を蹴落さずんば已まざるべき概あり巷間傳ふる所に據れば難に北海道拓殖が行員間に十數萬圓の私消者を生じ現に繫獄のものを出せる失態事件あり爾來之に基因して美濃部氏は痛く北拓經營に厭氣を催し備之を牛を馬に乘換へんとするに外ならざるが如し如上の事情の下、副總裁[illegible]難の[illegible]、松崎美濃部兩氏共に撰に漏れ意外の邊より東拓副總裁の撰任を見るべき機微あり其の候補者として傳へらるゝは前次官、某知事、退職某高等官の三氏なりとす

●林大尉韓國誤殺事件談

先に韓國守備の我騎兵隊が暴徒と誤信して一進會員二十一名を斬殺したる事件調査の爲め陸軍省より派遣せられたる林大尉は二十二日會下山丸にて歸朝九時半東上せしが船中往訪記者に語て曰く一時容易ならぬ誤解を招き將來韓國の統治上或は災禍を買はんかの嫌ひありしより實地に就て充分調査せしが往々一進會員中には暴徒と誤信さるゝに足るべき暴動あるものなしとせず殊に今回は前夜某地に暴徒の一團宿泊して良民を惱ませしかば軍事偵察の任務を帶べる我騎兵隊は其出沒を嚴重に警戒する折柄突然同地に再來せりとの情報に接せしより間諜を放ちて偵察を試み愈々夫れと確定直に襲擊したるが倘ほ不安の爲めに通譯を介して詰問せしに又もや怪しき報道を得たる始末は爭ふ可からざる事實なり左れど兎に角不注意とは云へ保護國の良民を誤殺したるものなるを以て其理由の曲直を問はず日本政府は此際遺族を救恤する事となり會員の意志も亦融和して圓滿なる解決を見たり云々因に同行の第十三師團參謀家永少佐も同一要領の事を語り更に斯る些細の事件を中央政府の問題と爲すが如きは李一進會長の爲めに惜む所なりと附加せり

●總會と救護演習

今回の總會式後直ちに開始せんとする赤十字の救護演習は平時に於ける天災遭難者に對し壯烈なる救護の實況を社員に示すの趣向にして般來藤田軍醫部長主として之れが指揮に任じ居れるが本日午後一時京城在住の赤十字社醫員看護婦及醫祝黜員は塵際宮内總會場に參集し救護演習施行に關し藤田軍醫部長より種々打合せを遂ぐる由なり

●日本側篤志表彰

今回の總會に際し京城居留民側にては今日の處に於ては社費幇助の廉に依り左の諸氏は式場に於いて推薦表彰の上頭書の徽章授與の恩典に浴すべし

有功章授與(特別社員)
勲六等 中村再造氏
同 (特別社員) 森 勝次氏
特別社員推薦 (終身社員) 木島平兵衛氏
同 (終身社員) 増田三穗氏
同 (同) 波多野彌五郎氏
同 (同) 古城管堂氏
同 (同) 秋吉富太郎氏
同 (同) 三好和三郎氏
同 (正社員) 白木爲次郎氏

●妻木博士の祝辭

過日開院式を擧行したる大韓醫院の建築は今回來韓せられたる韓國政府工事顧問妻木工學博士の指導の下に設計建築せられたるものなるが同博士は開院式に對し左の祝辭を贈られたり

人生三樂あり爲善其の一なり無病其の二なり長命其の三なり爲善は自己單獨の修養之を能くすべしと雖も無病長命は則ち然らず而して醫院の設備は病を攘し天命を完ふする所以にして無病長命の樂を與ふるものなりと謂ふべし惟みるに大韓國文化日に進み月に新なり醫院開設の議定まるや度支部建築所に此が經營の衝に當り今や全く功を竣へ茲に本日の佳辰をトして開院式を擧げらる報黃此の盛典に列する光榮を得何の喜か之れに如かんや抑も建設物には質用堅牢を主とするあり華美壯麗を專とするあり或は精緻に或は粗大に各々其の目的に從つて異なる斯建設物は華を去り實に就き專ら設備の完全を主眼とせられたるを以て輪奐の美壯麗の大以て人目を驚かすものなしと雖も老練の國手と相待て能く其の效果を收め得べきや疑を容れざるところなり然れども嘗て聞く聖人は病を治むるに之を未病に治すと又聞く能く兵を用ふる者は赫々の功なしと庶幾くば醫院完備と共に更に進で一般衛生の道を普及し醫院をして寧ろ赫々の功なからしめ以て人生の三樂を完からしめんことを聊か以て祝辭とす

●仁川民會成立

仁川第二次民會は一昨日午後四時より仁川民團所樓上に開かれたるが加來奥田の二氏のみ缺席し十八名の新議員は全部出席したり着席後富田民長假議長席に着き議長撰擧を行ひたる結果左の如し

十點 田中佐七郎
五點 加來榮太郎
二點 顯原修一郎
一點 桑野良太郎

田中氏當撰議長席に着き會計檢查員三名の撰擧を行ひたるが青木(十二票)稻田(十一票)加藤(五票)の三氏當選し民長の說明を終つて閉會したるは午後五時半なりき

●仁川第二回民會

本日午後六時半より第二回民會を仁川民團役所樓上に開き左の議案に就き討議する筈なり

一、仁川民團立仁川病院規則中改正の件

二、共同墓地道路變更の件

尚ほ協議事項としては曾て前期民會に提出を見たる小學校分校運動場取擴げの件外二三なるべし

●釜山民團議長撰擧

釜山民團議會議長に當撰せり 松前才助氏

●小學校落成式

第二尋常高等小學校舍落成式は昨廿七日午後一時より同校講堂に於て擧行せられたり式の順序は聖影開扉を以て始まり次で生徒一同君が代を合唱し横山校長教育勅語を奉讀し生徒の唱歌民長の式辭曾禰副統監の訓論三浦理事官の祝辭あり次て和田議長來賓を代表し祝辭を朗讀し夫より横山校長及兒童總代の祝辭朗讀あり右了つて來賓一同は生徒の製作品を展覽し茶菓の饗應を受け午後二時半散會したり當日の出席者は生徒父兄の外曾禰副統監及多數の文武官議員紳士淑女等なりしと云ふ

●聖影奉戴式

第二尋常高等小學校にては昨日午前十時今回下賜せられたる御聖影の奉戴式を擧行したり

●京城醫會

本月廿二日清華亭に於て私立醫會を開き來會には佐藤、小林、下瀨、田邊、醫監永井學士等にて役員の改選をなしたるに會長には古城氏副會長には高井氏監事には、安東、植村の兩氏當選したり次で左の決議をなせり

往診料第一回は壹圓以上次回以下は無料とす但し患者の需に應ずる場合は一回五十錢以上となす

宅診料金五十錢以上入院料一日二圓以上右は十一月一日より實行すべしと

●貨幣發行高週報 (自十月十八日至十月二十四日)

第一銀行券總發行平均高		八、九二三、一〇〇
内	正貨準備發行額	三、〇七三、八〇〇
	保證準備發行額	五、八五九、三〇〇
銀行券市場平均手許有高		七七、三四〇
銀行券市場平均流通高		八、一四四、八三六
硬貨發行額(十一月廿四日現在)		三、九四四、八六〇
内	金貨貳拾圓	八五〇、〇〇〇圓
	金貨拾圓	五〇〇、〇〇〇
	同 五圓	五〇〇、〇〇〇
	銀貨五拾錢	七七一、五〇〇
	同 貳拾錢	七三七、五〇〇
	同 拾錢	三五三、五〇〇
	白銅貨五錢	九六九、八五〇
	青銅貨一錢	一二二、三三五
	同 五厘	六〇、一七五

●大阪週末金融

日本銀行大阪支店の貸出は本週に入りて以來常に三百萬圓臺を持續し居たるも昨日に至りては漸次減少して貸出二百八十万八千圓、預金三百四十八萬八千圓となれり之を前週末に比せば貸出は二十五万三千圓を減じ預金は百九萬六千圓を增せり大体に於て本週中の金融市場は引續き緩漫を持續し普通割引日歩も二錢三厘とは云へど中には二錢一二厘きへあり各銀行とも確實なる方面の放資を求め居れる姿にてコールマネーの如き月内一錢七厘、月越三錢五毛見當を唱へながら出方は頗る多く取方は比較的少なし尤も藤本ビルブローカーの取扱高は百七十六万圓に達せしが取方にわらば更らに多額の出合わりしや勿論なり尚日本銀行の貸出が比較的減少せざりしは彼の冬物仕入に對する地方商人の手形が漸く期日となりしと米穀に對する資金の多少必要ある爲め地方銀行より小口の需要ありしに基かんも孰れも節季月の月末も迫りたる事とて次週は多少の決濟資金を要すべし但し大勢は依然變化なからん乎

●韓國鐵道運輸聯合會

同會は其筋監督たる鐵道管理局の認可を得會則及び加入證其他の印刷物を鐵道全線の同業者に配布したる以來入會を申込むもの續々あり十一月上旬龍山八景園にて開催すべき總會の期日も切迫せるを以て加入者勸誘の爲め同會の書記を京釜京義の全線に派遣することゝし本日出發する筈尚ほ總會は十一月十一日頃開會すべしと

●仁川海州間の運輸に就て

從來海州仁川間旅客貨物の運搬は邪賀上或特權を有する仁川港柴田回漕店の船舶を以て之れに充てられつゝあるも海路より搬出する牛皮、米豆の夥多なるにも拘らず回漕店の手にて獨占しつゝあれば自然之に伴ふ弊害一二ならざるやにて仁川の實業家間には却て他に競爭者の出でんことを希望しつゝあるが今回[illegible]野某は更に同地の交通運搬に資する爲め一大回漕店を企畫し目下京仁間に於て運動中なりと云ふ

●朝鮮新米の初輸出

最近神戸バックレー商會宛到着の鎮南浦新米千袋許りは近日出帆の便船にてバンクバーに輸出さるゝ由にて相場は百斤六圓以上なりと跡約は先つ五圓八十錢見當にて約三百噸許商談中なるが未に纏るに至らずと

●妻木博士歡迎會

度支部關係者の催しに係かる妻木工學博士の歡迎會は既報の如く一昨廿六日夜花月に於て開かれたるが來會者は荒井次官はじめ八十餘名にして近來の盛會なりしと云ふ因みに同博士は昨日目下新築中に係る龍山印刷局工場及び鎔解部並に麻浦煉瓦製造所工場等を視察せり

●靜岡縣出身將校送別會

今回歸還すべき第十三師團第五十一聯隊中靜岡縣出身の將校大尉以下將校下士數名の爲め在京同縣人は二十五日午後二時より旭町法務院官舍稻垣甚七氏方に於て送別會を開き紀念の撮影をなせり

●民團の寄贈

今回第十三師團歸還に就て京城居留民團より下[redacted]卒二千二百五十七人に對し紀念として手拭一筋宛贈呈せしに依り岡崎師團長以副官を從へ態々民團役所に民長を訪ひ鄭重なる謝意を表せられたり

●岡崎專務上京

日韓瓦斯會社專務取締役岡崎遠光氏は本日午前の急行にて南大門發東上したり

●若林總監延着

來任の途に在る若林警視總監は昨夜着任の豫定なりしも海上穩かならざりしため途中に滯在し昨夕下の關を出發する旨報あり着任は本日夜なるべし

●趙農相の轉地療養

趙農商工部大臣趙重應氏は近來神經衰弱症に罹りたるを以て釜山東萊溫泉に病を養ふべく夫人を同伴して日韓巡査各一人に護衛せられ約二週間の豫定にて昨日午前八時三十分南大門發[illegible]地に赴けり

●松原案氏歸京

此程より京義鐵道線輪狀視察の途に就き居たる全國[illegible]會松原案氏は廿六日安東縣より歸京大和町中山辰次郎氏方に滯在する由

●ベセルの歸京

曩きに日本を經て上海へ赴きたるベセルは二十三日歸京したり

公人私人

▲久水三郎氏(大邱理事官)上京中なりしが二十六日出發歸任せり

▲河西道三郎氏(釜山水産株式會社支配人)上京中の所二十六日歸釜せり

●近事片々

▲清使 唐紹儀の來朝により對清外交は[illegible]

▲更に 說わり清國の申出では多く[illegible]

▲讓歩 により解決すれば[illegible]

▲元來 對清外交の刷新とは何ぞ一讓歩するの謂に非ず外交の無能は實にして清國の有たらば夫ぞ

▲間島 問題の如き最初の主張を放擲し[illegible]

▲間島 問題は啻に間島のみと見れ[illegible]

▲大陸 經營上間島は最も樞要の地[illegible]

▲長白 山下松花江の上流一帶の地[illegible]

▲如何 に清國の御機嫌を取る爲と[illegible]

▲間島 が帝國の支配權に關するさ[illegible]は北滿洲の防備に多大の影響を及[illegible]

▲滿州 開放と帝國の經營とは相俟[illegible]の保障なり日露の戰は此爲に開かれ[illegible]

▲清國 に對し露國に對して滿州經[illegible]後の一大要事たり眼前の事に迷ふは[illegible]

▲滿州 經營は韓國經營也兩者相俟[illegible]帝國の大陸發展行はるべし須く洒眼[illegible]

▲臺灣 縱貫鐵道は成りて開通式を[illegible]灣統治の面目は之に依りて將に進捗[illegible]

▲臺島 領有以來十有三年漸くにし[illegible]治の積擧る之を思へば韓國の前途や[illegible]

▲總督 を更ゆる五人隨分の難事の[illegible]しも始に於て其方針を誤れるが爲な[illegible]

▲最初 に於て兒玉及後藤一流の[illegible]蹤を爲さば既に早く良結果を得た[illegible]

▲之を 思へば最初の大方針こそ肝[illegible]韓國の如きも此點に於て研究を要せ[illegible]

▲露領 に於ける韓人濫頻に日本[illegible]議説す是が爲に露官憲の誤る事多[illegible]

▲韓人 にして露國の警察官となり[illegible]さへあり露領に於ける日人の[illegible]

▲米國 新聞記者大隈伯を訪て國[illegible]なりと探挨す伯亦國民に替りて答[illegible]

▲新聞 記者は與に國民の大使た[illegible]罷わりて始て國民の意志を發表し[illegible]

▲ルーズベルト氏大統領退職[illegible]夕雜誌記者として年俸七萬圓の約[illegible]

れ前記の若者[illegible]せきインドルに引き移りしが今は聊の金とてはなく一文もなきのみならず平素よりの不仕鱈陥落の天罰は忽ち現はれて重症の梅毒に罹り終日泣きの涙で日を送り居るとか

（終り）

●美人の末路（六）

最元より歸へりし雪枝が（妻女の名）旦那と政江との間に不思議に思ひし道理二人の中は既に深き關係の結ばれ居りし今は女も駒々しく立居振舞だかも一家の人と擬り向きのことに差嘴み容れ何となく雪枝をなき物には朱擬を差し覗いて要らざる家事にかくしろにするより雪枝も終に堪り兼ねら遂みある身の端したなきことは知りながらも三度に一度は政江に向つて懲らしめの[illegible]旦那が承知の上のことゆゑ差し當り斯うといふ譯にも行かず空しく斑猫秋扇の恨みを胸に懐へ唯々旦那が迷ひの夢より醒むるを待つのみなりしが雪枝は國元の父が重き病の枕に臥し旦夕の程も測り知られざれば急ぎ歸國するやうとの電報の母の許より來りしより雪枝は打ち驚き取るものも取り敢ず直ぐさま旅裝を差して出發せしが明け暮れ氣に掛るは夫の亂行父の病を看護する中にも思は常に一家の上に馳せ居り[illegible]政江は雪枝が[illegible]しよりは以前に[illegible]朱唇巧み[illegible]其の中旦那はソロ〳〵政江の色香に飽きが差し南山町の料亭花月樓の何子とかいふ年増藝妓に現を[illegible]打ち忘れ毎夜々々の騒々遊び碕々家にも歸へらざる有様に政江は嫉妬の念遣る方なく時には旦那の胸倉に獅噛みつきて怨みつらみの文句を並べ立て身分柄に係る亂痴氣騒ぎを演せしことも屢々なりしが併し政江に取つては女房持ちの旦那に何時迄附いて居りたればとて末の見込とてはなく爰等が別れ時と或る日旦那に向つて分れ話しを持ち出せしに旦那も承知でソレがよからうと言葉に早速相談は纏り手切れ金として三百圓を貰ひ受に奇麗薩張と關係を斷つこと〻はなりたり

其の後政江は又々小金の溜まりし所より大和町二丁目のあるオンドルを借り受け何の爲すこともなく暮し居りしが其の中いつしか新町の破落漢重吉とかいふ勇み肌と契を結び當座は夫婦氣取りの仲睦ましく仕たい放題の眞似をして日を送り近所のもの〻よりも不思議に思はれ居りしが何時迄も見込なしに遊んで居る譯にも行かねば男の勸めにて小料理屋を始めんものをと思ひ定め工面算段して三百圓の金を調達せしに男は内心舌を出しマヅ當分飲めると許りにホク〳〵喜び飲む買ふ博つの三拍子揃つた道樂に瞬く間に其の三百圓を使ひ果たしたるより政江は一方ならず打ち驚き此れも此のやうな男に引き掛りしが災難の原因と早速男と別

●平壤韓囚の破獄

三名床下を堀て逃ぐ　一名は直ちに捕縛さる

曩に四名の破獄囚を出したる平壤監獄は又も[illegible]三名の破獄囚を出せり時刻は[illegible]前一時半頃にして獄舍[illegible]は脱監房破獄を企てたる韓囚は成辰權（強盜犯懲役十年）孔文益（阿片注射罪懲役三年）及び李若範（元憲兵補助員官名詐稱詐僞取財）の三名にして孔李の二名は其儘逃走目的を達したるも成は間もなく觀察道前に於て捕縛再び獄に投せられたり元來此舊監房は構造甚だ不完全にして且つ囚徒監視上非常の不便を感ずる處より近來は殆んど新監房のみを使用し舊監房は一時空房となりしが過日囚徒中に傳染病に罹り居れる者あるを發見したるを以て他囚と隔離別居せしむるの必要起り止むなく新記肺結核の成と癩毒の李とを監房に移し之に孔を看病人として同居せしめたり此三人の外に一人林京浩と云ふ盜犯の白痴同樣の囚人も同監房に收容され居たるも此者は其處が馬鹿正直にても云ふのか或は本統の悧巧なりしか兎に角破獄の當時は其群に投せず獨り超然として獄内に控へ居たりと而して此三名の韓囚か如何なる手段に據つて破獄したるかと云ふに監房の床板を引放し其の下より斜り五尺餘の大穴を穿ちて脱出したるものなるにと破獄發見と同時に監獄にては警察と手を分け非常線を張り警戒したるも捕縛し得たるは只前記の強盜犯にして肺病患者なる成辰權一人のみにして他の二人は未だ縛に就かすと云ふ獄舍の構造不完全なるに因るべけれども引續き二回の破獄囚を出したる同監獄の不注意に就ては當然其責は免かれ得ざるならん之れ一は監獄制度の不完全なるに因するもの

商店覗き

▲陶業社▼

京城陶器商中のオーソリテーたる陶業社と稱せしは主人前田熊市氏が青年時代より肥前伊萬里なる陶器會社に身を委ね次で二十八年京城支店主任として當地に來り三十三年偶々本店及び支店の閉鎖に際し單獨當地の支店を繼承せしより斯くは以前の名に因みて陶業社と稱するに至れり商品は如何なる高貴なる品物にても網羅せざるはなく到底他店の拮抗し能はざる所とす商風質實些の掛引なく顧客をして常に快感を催らさしむ主人前田氏極めて商買に熱心性格又商人としては珍らしく眞摯にして而も仁侠の心に富み且つ公共事業に關しては身を挺して盡砕し未だ曾て倦怠の色なし過般推されて民團議員の公職に就き更に大に居留地の爲め貢献する所あらんとす乞ふ幸に愛を加へよ

▲田中時計店▼

店舗は本町二丁目有力なる時計商なり開店せしは明治二十六年泥峴街中の老舗といふべし品物は何れも優等品にてソレに歐米各國の流行形を趁ひて常に抜目なく輸入し顧客の滿足を與ふるに腐心し居るは流石は主人田中氏が多年斯道に從事し且つ商機に敏なるの然らしむる所なるべし田中氏名は始一郎年齒漸く三十八而も單身當地に渡り赤手業を開き終に今日の如き成功を見るに至りし苦心は到底尋常一樣の業にあらざるなり現今は日本人商業會議所議員及び居留民團議員の公職を帶び資産名望共に居留民の儀表として恥づるなく切々公私の事業に努力し居れり

今般贊化病院副院長ヲ辭シ左記ノ處ニ開業

大和町壹丁目貳百四番戸（平山牛乳隣）

爲春堂醫院　古城俐吉

●京城座の演藝會　龍山災民救護慈善演藝會は一昨日より本町七丁目京城座に於て午後四時開催したるが非常の盛會にして入時頃は既に滿員となり場内は觀客肩を動かすに自由ならざる程なりき出しものとしては義太夫バイオリン長唄舞踏等其他何れも斯界切つての腕きゝ揃ひのことなりしかば何れも來客の拍手に迎へられパチ〳〵の音絶ゆる間とてはなく非常の盛會を極め十二時閉會せり

●●福井縣人秋期大會●●　在京福井縣人陸軍步兵中尉平柳竹志氏等の送別を兼ね昨日午後六時より本町六丁目有明樓に於て福井縣人秋期大會を開催せり

診療に從事す　理事廳前角

統監府通信管理局囑託醫學得業士　漢城病院内科主任　池田季雄

池田内科小兒科醫院

●萩原靴店の抽籤日延　本町三丁目の萩原靴店にては開店六週年に相當するを以て先般來より二百足に限り景品附賣出中なりしが非常なる好況にて忽にして定數以上に上りたるも得意先の切なる勸誘に依り尚百足を增し賣り出せしが特等景品には代價七十五圓のフロックコートを呈する由賣り出し期間は十二月の末迄とし抽籤發表期日は來年一月五日とのことなり因に賣り出し數に限りあれば一日も早く買ひに行つたがよろしかるべし

●巷のいろ〳〵●

◉水汲ヨボの喧嘩　一昨日午後八時頃南部翠洞水汲ヨボ李昌順なるものは同洞姜五榮方へ水を汲みに行きしに折柄一人の酒に醉つた水汲がやつて來たので李は之に向ひ酒を飲ますに水を汲めと要らざる文句を並べたるより某は大に怒り餘計なことを云ふなと李に喰つて掛り突に大立回りを演せしが結局巡査出張し双方を説諭して立ち歸へらしめたり

◉靴を搔つ拂ふ　一昨日午後七時頃住所不定の金秉浩（六十八）といふ竃だれヨボが南山町一丁目三十九番地筑紫館の玄關に脱ぎある洋靴をばソッと搔ッ拂ひ逃げんとする所を巡査に認められ本署に引致されたり

◉横着な厩八　本町三丁目菓子商中村方雇人兵庫縣生れ山本治太郎（二十）は一昨日午後九時頃本町一丁目の靑木堂の横手の所に車馬通行禁止といふ標札あるにも拘はらず車を曳いたなり通行せんとする所を巡査に認められ説諭されたり

(平)(民)(文)(庫)

▲伊藤さんは本年中に渡韓されますか（落皇城ヨボ）▲今年中には與入あるまいと思つて居れば間違はあるまい（平可通）▲小生は酒と來たら夢中になるが何んとかして酒を嫌ひになる工夫は有るまいか（本町上戸）▲好いた酒だもの大に飲みなさい但し亂に陷つてはイケませんエヘン（酒屋の小僧）▲私しの戀人は他に情夫を製造しつゝあるが一つ鐵槌を頭から見舞つて遣りますから御賛成を願ひます（煩腦の雲）▲今晩貴郎又遲く御歸りでしようね（舊夫人）▲舊を捨て新につくは夫れ人情れまへもヤア悟りのない事ね（山高生）▲日本人の常として冷易くして熱し易し吾人不幸にして善意に解するの勇氣を有せず（敵愾生）▲ヨボのハイカラ頭日殊に繁茂せるを見る一つ燒き拂を實行しては如何（通行生）▲自分が昨日本町三丁目を通つてたら一人の令嬢らしき人がツシと車夫さん一寸私しね急くんだから新町の裏の稲荷樣まで……此れには深い仔細がある由なるが投書しましようか（近所の小僧）▲小學校開校式に臨める曾禰副統監の元氣盛んなものなり（給仕）▲近頃南大門朝市のスリが影を潛めました皆さん御安心なさいな（巡査女房）

待合　春日

京城本町一丁目北裏　支那領事館前

洋室には琵琶バイヲリン尺八笛月琴碁將棋等の備付あり御客樣方の任意娛樂に供す店

同　可娯欄（十九）

（本紙登載廣告）　魚友　漁史

◎狂　歌

▲酒の山色

山色をのぼる朝日の勢ひに家運も開らくさくら正宗

▲寶の岡野

轉んでも只は岡野の商路は損して利得を土耳古金口

▲茶の開春園

評判も立つや茶柱香も高く名さへ開春ゑんぎ好い舖

天氣豫報

●天氣豫報（自廿七日午後六時至廿八日午後六時）西の風晴れ

廿七日午前六時各地氣象概況　低氣壓は日本海中部に出で北又は西の風吹き概ね晴天なり

廣告

第三回公告

第十三師團歸還に付送別並に紀念品贈呈費中に左之通り寄附せられたり

明治四十一年十月廿二日

京城居留民團民長　熊谷頼太郎

一金三十圓也　天一銀行支配人　須田近思郎殿

一金十五圓也　京城起業株式會社長　古城菅堂殿

一金十圓也　大韓勸農株式會社支配人　原勝一殿

一金十圓也　大倉組出張所主任　上田常信殿

一金十圓也　南部居留顯東號典當局　小栗榮吉殿

一烟草富士十函　東亞烟草株式會社支配人　赤間嘉之吉殿

一ビースビール貳函　大日本麥酒株式會社大阪支店　澁谷英次郎殿

一キリンビール貳函　辻屋本店　松浦源治殿

一キリンビール貳函　明治屋京城出張所　三上林太郎殿

以上

廣告

本會ハ秋季總會ニ於テ左ノ決議ヲ爲ス

一往診料　第一回金壹圓以上　次回以下無料トス　但シ患家ノ需ニ應ズル場合ハ一回金五十錢以上トス

一宅診料　初診金五十錢以上

一入院料　一日金貳圓以上

右十一月一日ヨリ實施ス

京城醫會

元當院在勤醫學得業士江頭富雄を招聘し再び眼科部を開設す

京城居留民團立　漢城病院

西洋御料理　京城五十八銀行横通　寶亭

○梅毒○淋病專門　○眼科○外科

龍山老松町　十字病院　院長　醫科大學選科得業　望月憲磨

肥前塊炭　貯炭場　龍山電車停留場裏

鐵工業　工場　永樂町一丁目

穀物及食糧雜貨　商店　明治町一丁目

右各營業共誠實迅速を旨として勉強仕候間多少に不拘御用命被仰付度候

明治町一丁目　店主　山邊仙十郎　電話三十七番

土耳古金口煙草GD　インペリアル　茶褐色スポルト　各種

京城代理店　歐米雜貨商

京城本町六丁目　㊍　岡野商店　電話（五七一番）

抽籤期日變更廣告

曩に弊舖自家製御注文靴二百足を限り六週年紀念賣出廣告を發表致候處大方各位の多大なる御[illegible]て既に定數以上の御申込に相達し弊店の[illegible]きず奉深謝候然るに今回各御得意樣の御勸誘によ[illegible]足を增加なし都合三百足とし更に特等[illegible]進呈仕り十二月々末を期し全部納品濟こ致す事に相[illegible]就ては不得已景品抽籤の期日を延期し來る四十二年一月に變更致候間豫め御承引置き被下度候　敬白

明治四十一年十月

京城本町二丁目（電話三一八番）　萩原製靴店

抽籤期日は十一月三日の處來る四十二年一月五日に改正す

特等景品價格金七十五圓也

但本田洋服店調製フロックコート一着進呈

牛乳は平山牧場に限る

▲平山牧場は開業以來茲に十數年實に斯業の元祖なり

▲平山牧場は積年の經營に依り今や設備の完全なる事他に其類を見ず

▲平山牧場は韓牛を飼養せるを以て乳質濃厚脂肪に富む事洋種の遙に及ばざるは世既に定評あり

▲平山牧場は正直を旨とし配達の迅速と正確なるを以て世の好評を博せり

▲平山牧場は牛乳の蒸溜消毒を實行するものなれば無菌なる事を保證す

▲平山牧場は今回顧問獸醫市岡點一郎氏を聘し牛乳取締上嚴重なる監督を委囑せり

▲平山牧場は顧問獸醫牝牛の飼養管理を監督し健康上遺憾なかんことを期す

▲平山牧場は顧問獸醫日日牛乳の定量定質の檢査を行ふを以て安全なる事を保證す

▲平山牧場は改良主義なるを以て若し弊場に不行屆の點御認めの節は伏藏なく御注意を乞ふ

京城大和町二丁目　電話一三三　平山牧場

申込所　京城南山町二丁目　米穀木炭雜貨並に造花調進所　玉井商店

申込所　京城本町二丁目　共進舍　平山牛肉店

齒科全般の治療　米國最新式義齒

米國齒科醫學博士　女醫　中村安子　京城本町六丁目（數そば横町）

落語

一ツ穴（十二）

妻「何んだい………

女「だから妾が云はない事ちやア無いんです

妻「何がサ………

女「何がさつて戸口で御免なさいと云ふから往て見るとね好い年増なんですの見ると鳥渡人柄の處があつて粋な人がね呼吸をせい／＼切つて來て居るんですよ

妾「ハア……全体何なの

女「マア聞なさいね夫からね何とか云ふかと思つて居ると此方に大津屋の半兵衛さんは居りますかと云ふから妾は居ないと云ひましたア御這入しやいませんと然ふ云つたられさばけなすつちやア不可ません其處に御新造が有りますと云ふんですヨマア憎いぢやア有りませんか御新造がつてゝさ……妾も頭が騒うございましたから妾は今用達から歸つて來た計りですが次第に由たら留守に御出で被爲たかも知れませんと云つたらね鳥渡れ目に掛りたいと云ふから御姓名は何んと被仰るんですと聞いたら姓名は云はなくつてもれ目に掛れは分ると斯う云ふんですワ夫から二度も三度も聞て遣つたら壯舜に怒つてね姓名を申さなくつて分らなかつたら妾のやうな婆アが來つて被仰て下さいましと斯う云ふんですがね婆ア處ちやア嫌い好い年増ですワ何んだか様子が變なんですけれど何う爲ませうねへ旦那は餘度外にも浮氣を爲て御出でなさるに違ひ無いと思ひ升ワ

妾「來て居るつて然う云つて遣りな何を云ふんだい笑はせやアがる嫌味なことを云やアがつて生意氣だヨ

何方が生意氣だか譯が分らない園ひ物は園ひ物で幾分か嫉妬があるもんで襲衣姿の上へ御召縮緬の袷を引掛け解れた鬢の毛を搔上げ乍ら先刻少し飲んだれ酒の醉で眼の縁をホンノリ紅くしてズル／＼御引摺で門口へ出た時の風は得も云はれない風情でございまして

妾「御出で被爲まし貴女何方から御出でに成りました………

妻「御女中は幾人御出で被下ても不可ません半兵衛さんを御出し被爲て下さいまし

妾「夫りやア貴女然う被仰いますけれども今何んとか取次の女が出たら妾のやうな婆アが來たとか被仰たそうですけれど妾は婆アと云ふ御名前の御方は有りますまいと思ふんです旦那はれ繁み被爲て被入しやいますが御名前を被仰て御用に由たら御取次を致しませう

と云ふと御に權助から種々な話しを聞た揚句ゆ此妾、然う成ると女と云ふ物は我慢が出來ない此方の方から嫉妬の虫が込上つて來ると此方の方から疳癪の虫下の方からはムづき虫疝氣の虫色々な虫が込上つて來るから……無茶苦茶でゲス

●新聞料 一ヶ月金…錢 ▲六ヶ月…
●廣告料 ▲五號活字…
印刷人 高秋…
發行所 京城…